

循環型社会の構築

廃棄物量^{※1}・水リスクの極小化やリサイクルしやすい製品設計を通して限りある資源を有効に利用し、循環型社会の実現に貢献しています。^{※1} TG2050環境チャレンジで掲げた排出物量極小化に向け、現在は、廃棄物量の低減に取り組んでいます。

基本的な考え方

TG2050環境チャレンジで掲げたサーキュラーエコノミーである循環型社会の実現に向けて、排出物量、水リスクの極小化を目指して、2030年マイルストーンとして目標を設定し、材料使用量の低減、徹底的な分別による廃棄物の低減、リサイクルしやすい製品設計など資源の有効利用に取り組んでいます。

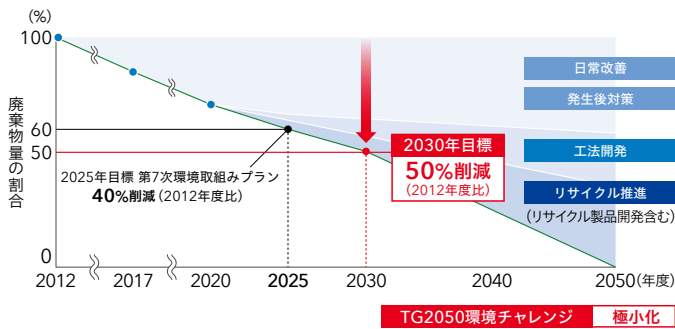
また、水に関しては気候変動の影響により世界各地で水不足や水害などが発生しており、大きな問題となっています。そのため、グローバルで活動を展開する国・地域ごとにリスクを洗い出し、水使用量の低減や水のリサイクルはもちろん、よりきれいな排水として地域に還すことなどのリスク低減に取り組んでいます。

廃棄物の低減

●2030年マイルストーンの設定

TG2050環境チャレンジの実現に向けて、2030年マイルストーンを設定して取り組みを推進しています。実現に向けては、つくりの改善による端材・廃材の極小化やリサイクルしやすい製品・材料開発、工場での徹底的な分別などを行っています。

廃棄物量の極小化に向けたシナリオ(削減イメージ図)



●製品のリサイクル技術の開発

自動車のライフサイクル全体を考え、リサイクルしやすい製品や材料の開発・設計、廃材のリサイクル技術の開発を推進しています。

ELV^{※2}部品リサイクルに向けた技術開発

重点項目	取り組み方策
新規リサイクル	・複合素材分離技術 ・新規再生処理技術(高品質マテリアルリサイクル)
リサイクル材の車両搭載	・ELV部品再生処理技術 ・リサイクル材用途開発
リサイクルしやすい製品設計	・解体しやすい製品設計 ・リサイクルしやすい素材、構成への変更

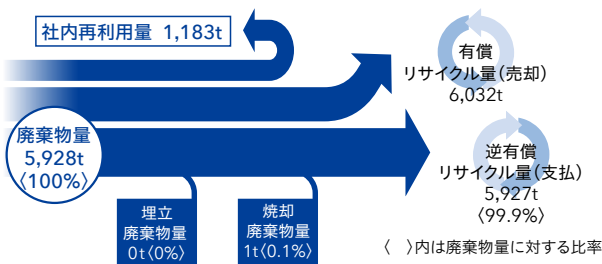
※2 使用済車両(End of Life Vehicle)

●生産段階での廃棄物の低減

生産工程における廃棄物低減を図るため、発生源対策とリサイクルを推進しています。さらにTG2050環境チャレンジの達成も視野に入れ、工場、生産技術、材料技術、製品設計部門と連携した「廃棄物低減プロジェクト」を発足させ、発生源対策の強化を図っています。各工場では、現地・現物による低減活動に加え、外部の専門家による低減アイテム出しを行い、ゴム、樹脂、廃液の低減を実施しています。

また、国内外グループ会社にも廃棄物低減を促進するための勉強会を実施しています。

廃棄物発生量・処理状況(2020年度実績:豊田合成(株))



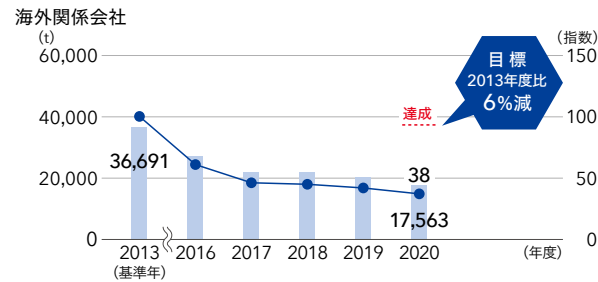
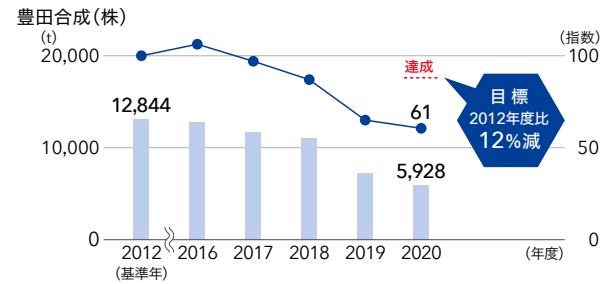
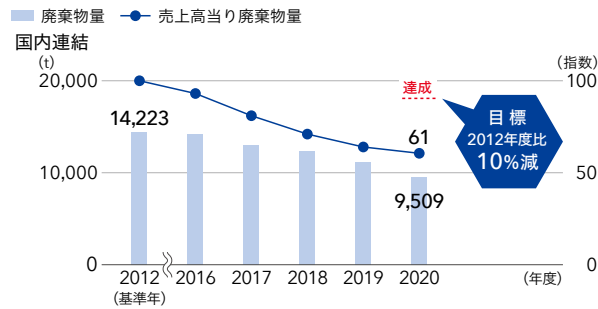


●物流段階の梱包材の低減

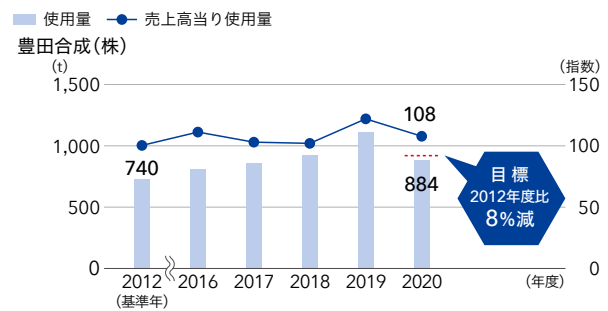
製品輸送時に使用する梱包材については、通い箱の洗浄回数を増やし清潔に保つことで、汚れを防ぐために使用する梱包材を低減しています。さらに、製品の品質維持と梱

包材の使用量低減とのバランスを考慮しながら、通い箱への蓋付けなどによる梱包材の低減も進めています。

廃棄物量・売上高当り廃棄物量(指数)^{※3}



物流梱包材使用量・売上高当り物流梱包材使用量(指数)^{※4}



※3 売上高当り廃棄物量(指数)は基準年を100とした場合の数値 ※4 売上高当り物流梱包材使用量(指数)は基準年を100とした場合の数値